

岡田 唯男

鉄蕉会 亀田ファミリークリニック館山 家庭医診療科
家庭医のためのマタニティケア／ウィメンズヘルスフェローシップ
プライマリ・ケア スポーツ医学フェローシップ
プライマリ・ケア リサーチフェローシップ
HANDS - FDF, Primary Care Institute Japan

プロフィール(概略)

医学生時代に家庭医、および臨床留学を志し、米国で家庭医療学のレジデンシーを修了後、指導医となるための研修（フェローシップ）と公衆衛生大学院を並行して修了、2002年亀田メディカルセンター入職。2006年6月より家庭医療の実践、研修、研究の場として開設された亀田ファミリークリニック館山の院長。プライマリ・ケア（家庭医療学）の専門家、卒後教育の専門家として院内外で活動中。

法人内：亀田ファミリークリニック館山（職員100名前後）の院長として、医科クリニック、透析センター、リハビリ部門、歯科センター、運営、統括、質の管理、また、2000年から2017年まで家庭医後期専門研修プログラムディレクターとして、その後は一指導医として後期専門研修医（シニアレジデント）十数名と短期の初期、後期研修医、学生の指導に当たる。

法人外：特に卒後研修における指導を中心に、全国の指導医養成セミナーの講師、WSファシリテーター、コンサルタント、また主催者として招待を受ける。年間約10~20件の要請を受けている。最近是国内の家庭医育成だけでなく、日本での薬剤師卒後教育（株式会社サエラ学術顧問）、北京での家庭医育成、医療英会話（めでいかる英会話、ヨミドクター／読売新聞）などの依頼も。2020 東京オリンピック・パラリンピック選手村内診療所勤務 **メディア：**個人的に取り組んでいる指導医養成コース（HANDS-FDFで検索下さい）が2007年12月、読売新聞「教育ルネサンス」、2008年8月、北海道新聞「時代の肖像」で取りあげられる。2008年6月発行のアエラ臨時増刊号「日本初！かかりつけ医を探すガイド 日本の家庭医1435人」の中で取りあげられる。2018年版 国民のための名医ランキング—いざという時の頼れる医師ガイド 全国名医514人厳選。桜の花出版（2017-06-08）総合診療 11名の1人に選出。週刊現代、女性セブンなど多数にコメント掲載 **TV：**2006年3月 金スペ「みのもんたの激論！ 医者ズバッ」全国TBS系（20人の医師の1人として）／2011年3月 TBS系 これが世界のスーパードクター14 で家庭医として始めて取り上げられる。／2012年9月 NHK ドクターG 歴代13番目のドクターG（家庭医として初）として出演。／2017年11月 人間ってなんだ？超AI入門

認定資格・役職（主要なもの）

米国家庭医療学認定委員会認定専門医 (DABFM, 2001-)、米国家庭医学会特別会員 (FAAFP, 2005-)
日本プライマリ・ケア学会認定専門医（通称家庭医療専門医）(2014-)・認定医 (2002-)・認定指導医 (2003-)
公衆衛生学修士(multidisciplinary MPH, 2002) ALSO (Advanced Life Support in Obstetrics) Provider (1998-) / Instructor (2003-)
日本医学教育学会認定医学教育専門家 (JSMECMES, 2018-)
日本医師会 認定産業医 (2014-)、認定健康スポーツ医 (2014-) 品質管理検定 (QC検定) 2級 (2014)
日本スポーツ協会 スポーツドクター (2024~) Essentials of Performing Arts Medicine PAMA/ACSM 2018
聖マリアンナ医科大学 客員教授 (2012-) 千葉大学医学部 臨床教授 (2011-) 東京医科歯科大学 (東京科学大学医学部) 臨床教授 (2015-) 東海大学医学部医学科 客員准教授 (2009-) 福井大学医学部臨床教授 日本医科大学 特任教授 (2016-2018)
日本プライマリケア・連合学会 理事 (2012-) 北京医师协会全科医师分会 理事(2015-)
医師免許（日本、米国ペンシルヴァニア州）、中国北京市外国医師短期行医資格（全科医疗科：General Practice）(2014-)

TADAO OKADA, MD, MPH

経歴

神戸生まれの神戸育ち（こうべっこ）	2000 – 2002	ピッツバーグ大学メディカルセンター家庭医療学レジデンスー連合会 医学教育者養成プログラムフェロー（米国ピッツバーグ）
1995 神戸大学医学部 卒業		
1995 - 1996 在沖縄米国海軍病院／インターン		
1996 – 1997 京都大学医学部附属病院総合診療部／研修医	2000 – 2002	ピッツバーグ大学公衆衛生大学院（公衆衛生学修士取得）
1997 – 2000 ピッツバーグ大学メディカルセンター附属シェイディサイド病院 家庭医療学レジデント（米国PA州ピッツバーグ）	2002年9月	家庭医診療科部長代理として着任
	2005年4月	同部長へ / HANDS-FDF 設立
	2006年6月	亀田ファミリークリニック館山 院長／鉄蕉会 理事に

主な論文、著書、著作（その他教育、家庭医療、マネジメント等に関して分担執筆、翻訳など多数あり）

主たる論文（下記リンクを参照）

Reseachmap: <https://researchmap.jp/familydoc/>

Google Scholar: <https://scholar.google.co.jp/citations?user=IMLFspUAAAAJ&hl=ja>

Orcid: <https://orcid.org/0000-0002-4002-3966>

ResearchGate: <https://www.researchgate.net/profile/Tadao-Okada>

主たる著作（監修含む）

- * 専門編集： 予防医療4部作 を含む その他主要出版物はこちら <https://www.amazon.co.jp/stores/author/B0B62LVP6Z>
- * 臨床指導医養成必携マニュアル 杉本なおみ・藤沼康樹と共著 ぜんにち出版 2005
- * 臨床診断推論入門 全10巻 総監修：岡田 唯男、原案監修：伊藤 彰洋 株式会社医学映像教育センター2012-2015

以下分担執筆（主要なもの）

- * 葛西 龍樹 編.スタンダード家庭医療マニュアル-理論から実践まで-.第1版.大阪:永井書店;2005
- * 尾藤 誠司,藤沼 康樹 編.<総合診療ボックス> 決定版！スグに使える臨床研修指南の21原則.医学書院; 2005
- * 日本家庭医療学会 編. Family Practice Seminar 3 プライマリ・ケア救急 -即座の判断が必要なとき- 大阪:株式会社プリメド社; 2007
- * 財団法人 日米医学医療交流財団 編. シリーズ日米医学交流 No.7 家庭医学・総合臨床にみる医学留学のパスポート 東京:はる書房; 2007
- * Dambro RM, ed. Griffith's: 5 Minute Clinical Consult. Philadelphia, PA: Lippincott Williams & Wilkins; 2007.
- * Simel DL, Rennie D et al ed. The Rational Clinical Examination : Evidence-Based Clinical Diagnosis. McGraw-Hill Medical Publishing; 2008
- * お母さんを診よう プライマリ・ケアのためのエビデンスと経験に基づいた女性診療. 中山明子/西村真紀 編 初版、第2版 南山堂 2015年4月, 2022/4/27
- * 編集主幹：草場鉄周. 総合診療専門研修の手引き一何をどう教え学ぶか 工夫と実例 (総合診療専門医シリーズ4) 2016.7.5 中山書店
- * 日本プライマリ・ケア連合学会 基本研修ハンドブック 第2版、第3版 .南山堂 (2017-05-19、2021/12/15)

TADAOKAKADA, MD, MPH

招聘団体（主要なもの。順不同、抜粋）

内閣府、超党派議員グループ、千葉県、日本プライマリ・ケア連合学会（旧日本プライマリ・ケア学会、旧日本家庭医療学会 含む）、日本医学教育学会、日本外来小児科学会、日本小児科学会、全日本民主医療連合会、地区民主医療連合会、三重大学、聖マリアンナ医科大学、日本医科大学、筑波大学、岡山大学、近畿大学、千葉大学、北里大学、金沢大学、東海大学、杏林大学、東京医科歯科大学、神戸大学、島根大学、秋田大学、野口医学研究所、Volunteer Hospitals of Japan(VHJ)、Honk Kong College of Emergency Medicine、Mahidol University Ramathibodi Hospital (Thailand)、北海道家庭医療学センター、出雲家庭医療学センター、四病協、岐阜大学医学部 医学教育開発研究センター(MEDC)、県立広島病院、徳島県立病院、国立病院機構長崎医療センター、岩手県立中央病院、徳州会、愛仁会、在沖繩米国海軍病院、地域医療振興協会、地区医師会、麻生飯塚病院、臨床心臓病学教育研究会、メディカルプリンシプル社、NPO 日本医療教育プログラム推進機構(JAMEP)、岐阜市民病院、株式会社サエラ（学術顧問）、北京医师协会全科医师分会（中国）、船橋二和病院、千葉県循環器病センター、平成26年度厚生労働科学特別研究事業「持続可能な周産期医療体制の構築のための研究」 その他多数

受賞

日本家庭医療学会 学会賞（研究指導医として） 受賞 2008年.2009年

研究／事業助成金（抜粋）

(*)は筆頭研究者

シェイディサイド病院財団*(2001)

厚生労働科学研究(2004)

日本家庭医療学会(2007,2010)

財団法人仁泉会医学研究所*(2008)

社会福祉推進費補助金事業（厚生労働省）(2009)

社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団 JKA補助事業(2010,2011)

公益財団法人 勇美記念財団 在宅医療助成 (2011)

その他 岡田唯男についての情報へのリンク集

linktr.ee/t_familydoc

主要な著作の一部：familydoc @ Scribd

<http://www.scribd.com/familydoc>

ブログ：

<http://pcij.wordpress.com/>

HANDS-FDF：Home Away Nine Days Faculty Development

Fellowship <https://handsfdf.wordpress.com/about/>

-----（ここまで）-----